



テーマ  
見つけよう 私のふるさと

第九回

# 十湖賞俳句大会

入選句集

■主催 / 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会、浜松市  
■後援 / 静岡県教育委員会、浜松市教育委員会、静岡県俳句協会、静岡新聞社・静岡放送、中川新聞東海本社、NHK静岡放送局、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、K-mix、FMHarol、浜松ケーブルテレビ株式会社

平成29年2月発行

<発行元> 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

<事務局> 浜松市東区役所区振興課内  
浜松市東区流通元町20番3号

TEL:053-424-0115

Eメール: e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

# 「十湖賞」と「浜松市東区俳句の里づくり事業」

松島十湖翁は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町とよにしちやうに生まれ、「第二の芭蕉」とも言われた俳人にして政治家、更には地域貢献に努めた篤志家とくしかです。

十湖翁は、俳句を人々にとってより身近でわかりやすいものにするため、それまでの自然や四季折々の生活を題材とする伝統的な俳句に、無駄遣いをせずつつましく暮らすこと、一生懸命に勉強すること、人のために尽くすことなどの報徳ほうとくの精神を取り入れました。

十湖翁が生涯に創った俳句は八千を超え、全国各地に十湖翁本人もわからない程多くの弟子がおり、その数は数千とも一万とも伝えられています。

十湖翁は郷土・浜松を愛し、「はま松は出世城なり初松魚はつがうお」という「出世の街・浜松」を誇る気持ちを俳句にしています。

東区では、こうした十湖翁の遺徳を称えるとともに「郷土を愛する心」を今に伝えるべく、十湖翁の名を冠した「十湖賞」俳句大会、小中高校俳句講座、句碑めぐりツアーなどの俳句関連事業を「浜松市東区俳句の里づくり事業」として行っています。

## 第九回「十湖賞」俳句大会入選句集

平成29年2月11日(土・祝)

於 浜北文化センター小ホール

### 目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞	
県教育長賞	6
市教育長賞	
特選	7
佳作	8・9
奨励賞	10 13

### 選者

九鬼あきゑ氏 (「樵」主宰)	菅瀬節子氏 (「みづうみ」主宰)	鈴木裕之氏 (「海坂」主宰)	高柳克弘氏 (「鷹」編集長)
-------------------	---------------------	-------------------	-------------------

### 第九回「十湖賞」俳句大会投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
602	1,950	503	1,391	1,364	2,968	1,866	4,167	4,335	10,476	市内	1,182
										県内(浜松市外)	278
										県外	490
										合計	1,950

※募集期間：平成28年7月4日(月)～9月30日(金)

※五十音順

第九回「十湖賞」俳句大会は「見つけよう 私のふるさと」をテーマに、四部門で4335人、1万476句の投句をいただくことができました。投句された皆様に深くお礼申し上げます。

全国を対象とした一般の部では、38都道府県と海外からの投句もあり、本大会の一層の盛り上がりを感じています。

今回、「見つけよう 私のふるさと」をテーマに俳句を詠むことで、皆さんの身近にある、あるいは、離れていてもいつも心の中にある「ふるさと」について、改めて考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。それぞれのふるさとを愛する心を、これからも大切にしていきたいと思えます。

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会では、郷土を誇り、愛する気持ちを、俳句を通じて育んでいくため、これからも創意工夫を重ねてまいります。終わりに、入選された皆様に心よりお祝い申し上げますとともに、投句していただいた皆様のますますのご活躍ご多幸をお祈り申し上げます。

浜松市東区長 小楠 浩規

東区では、現在の東区豊西町出身で、明治・大正期に活躍した俳人・松島十湖翁により培われた俳句が盛んな地域性を活かし、平成19年度から「浜松市東区俳句の里づくり事業」を実施しております。

この事業では、「十湖賞」俳句大会のほか、東区内の学校を中心に、児童・生徒に俳句に親しむ機会を提供する「小中高校俳句講座」、市内に数多く残る句碑を巡りながら俳句を学ぶ「句碑めぐりツアー」等を行い、地域の俳句文化の振興を図っています。

今後も、地域の財産である俳句を通じ、地域の皆様に郷土への誇りと愛着を持っていただけるよう、様々な取組みを行ってまいります。

結びに、「十湖賞」俳句大会に投句していただいた多くの皆様や選考していただきました選者の方々をはじめ本年度の「俳句の里づくり事業」に携わっていただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます、挨拶とさせていただきます。



## 十湖大賞・十湖賞

〈高校生の部〉

### 初子 凧無垢な瞳のその先に

浜松東高校2年 小倉海都

評…遠州の強い風の中、浜松城に仕える武士が長子誕生を祝って凧を揚げたという。その初凧が青空へ向って躍動する。凧には初子に托された夢と未来がある。幼子の純真な瞳が大空を駆ける凧を追う。

(鈴木裕之)

## 十湖賞

〈一般の部〉

### 祭果て遠つ淡海に星そろふ

磐田市 太田和志

評…「祭」は夏の季語。夏は疫病や、風水害などの災難が起こりやすく、その怨霊を鎮め祓うことからはじまった祭りである。「祭果て」と、改めて星を見上げて無病息災を祈念しているのである。「星そろふ」がポイント。

(笹瀬節子)

〈中学生の部〉

### 沈む日も草もとんぼもゆれている

笠井中学校2年 鈴木幹太

評…一日の中で最も幻想的で美しいのは、日が上る刻と沈む刻だ。この句は夕陽の景を詠んだもの。日が沈む一瞬、輝く夕陽の揺れと眼前の草々の一斉にゆれ動くさまを切り取った。その上、空ゆくとんぼまでも。印象鮮明な句だ。(九鬼あきこ)

〈小学生の部〉

### 上を見よたこいっばいの昼の空

有玉小学校6年 安松滯里

評…「上を見よ」の命令形の力強さは、まさにたこあげ合戦の勇ましさにふさわしいですね。空いっばいのたこを見た思いを、「すこい」「びっくり」というありきたりの言葉を使わず、自分の言葉で伝えている点を評価しました。

(高柳克弘)

## 東区長賞

〈一般の部〉

木簡に「濱」の一字や鳥渡る

浜松市南区 戸塚きえ

評…伊場遺跡から出土した木簡であろう。奈良時代のもので「濱」の一字が残されていた。この文字を通して、当時の自然や暮しに思いを馳せる作者。「鳥渡る」の季語を得て、時空の拡がりのある世界へ誘われるようだ。  
(九鬼あきえ)

## 県教育長賞

〈高校生の部〉

初日の出砂と光が混ざる時

浜松東高校1年 岡野龍

評…「砂と光が混ざる時」と、新しい年の新しい光、つまり「初日の出」の神々しい一瞬をすかさず捉えた。その一閃は足元にも及んだであろう。自然を詠い、ゆだねる大きな心、そこには清々しい高校生の立ち姿がある。  
(笹瀬節子)

## 市教育長賞

〈中学生の部〉

富士山の蒼を見つめる蝸牛

与進中学校3年 佐山清正

評…浜松では遠富士しか眺められず、晴天の若い富士を見ることは出来ない。旅行の折か、麓近くでのキャンプの折か眺めた富士山は雄大である。それを見つめているのは何と蝸牛。遠近法の描写は見事である。  
(鈴木裕之)

〈小学生の部〉

弟と童話を讀んだ夏休み

神久呂小学校6年 川瀬晶子

評…弟のめんどうをちゃんと見る、お姉さんのやさしさがよく伝わってきます。おなじお話しでも、きょうだいなかよく読むと、おもしろさがぐっと増えますね。夏休みの思い出の一つとして、いつまでも残しておきたい一句です。  
(高柳克弘)

## 特選

〈一般の部〉

鷹渡る虚空に風の生まれけり

磐田市 鈴木悠佳梨

子を産みに帰れば大きき千瀉あり

神奈川県鎌倉市 山下桐子

〈高校生の部〉

涼風や雑魚寝の顔をなでてゆく

浜松学芸高校2年 熊谷真由

時に雨時に炎天生きる街

浜松東高校1年 増田ギリエルメ

〈中学生の部〉

心地よいピアノの音と星月夜

与進中学校3年 津野ひなた

姉と行くジュピロ応えん夏ぼうし

中部中学校1年 星舞琴

〈小学生の部〉

さらさらとながれるかわであゆジャンプ

北浜南小学校1年 池沼菜優

塾帰りおはぎみたいなおぼる月

静岡大学教育学部付属浜松小学校4年 久米ここ愛

# 佳作

## 〈一般の部〉

雪下し終えて親父の茶碗酒

東京都世田谷区 石川昇

ふるさとに弟ひとり鰯雲

浜松市中区 稲津とし子

中田島砂丘に春の立ちにけり

浜松市浜北区 小木厚代

石段をトトンと降りて春の川

岡山県岡山市北区 信安淳子

秋天や万の折鶴翅そろへ

浜松市中区 藤本秀子

汽水湖の由来子に説く鯊日和

浜松市浜北区 古木ヒロ口

## 〈中学生の部〉

やぶれたての網の中から見る金魚

笠井中学校3年 磯貝和樹

ガーベラを母に貰った誕生日

北浜東部中学校3年 大谷南帆

今はただ眠りたいだけ虫の声

中部中学校3年 河島沙弥

雨上がり花と校舎がうかぶ水

北浜東部中学校1年 北野結香

つばめの子親にならってとぶ練習

与進中学校2年 田中涼香

鰯雲一人ぼっちの読書中

北浜東部中学校1年 山田玲音



## 〈高校生の部〉

真夏日の今日も一人で音遊び

浜松東高校1年 池谷蒼一郎

鮫鱧も住みたる海は未知の国

清水国際高校3年 岩城星哉

初日の出真つ赤に燃える日本国

浜松東高校3年 氏原綾哉

富士山や負けずおとらずみかんの木

浜松東高校1年 中井圭吾

桜エビ富士が見おろすカーペット

清水国際高校3年 糠谷智宏

蛍や命の炎放ちけり

浜松学芸高校1年 宮崎夢

## 〈小学生の部〉

食卓に海の香運ぶ初鰹

和田東小学校6年 太田涼介

春の空ウサギがみんなとびはねた

豊西小学校5年 岡田笑奈

アクトから手が届くかな天の河

北浜南小学校6年 小田佳乃

かき氷シロップかけたらちぢんだよ

笠井小学校4年 古山世漣

わが家からメダカの学校徒歩一分

大瀬小学校5年 佐藤瑛都

こおろぎもいのちがあるねおなじだね

笠井小学校1年 寺田悠太



# 奨励賞

〈一般の部〉



水豊かなる遠州の田植かな

浜松市南区  
渥美 英雄

とりかへて夢ばかりみる籠枕

愛知県岡崎市  
安藤 祐暁

新松子愚痴は聞くまい話すまい

袋井市  
石原 京子

浜松は十湖の里や水澄めり

浜松市南区  
伊藤 久子

水底に色にじませて落葉かな

滋賀県草津市  
井上 次雄

蜜柑山課外授業の生徒らも

浜松市浜北区  
岩城 悦子

ふる里は水の惑星蝌蚪生まる

浜松市南区  
小澤 幸一

子らつどいシートはためく盆休み

浜松市中区  
糟谷 修子

降り立てばどこか懐かし空っ風

浜松市浜北区  
川島 靖子

〈高校生の部〉

ジャスミンの風が佇む大ホール

浜松市立高校3年  
相羽 美智子

桜吹雪いつかの記憶蘇る

天竜高校春野校舎3年  
大村 静香

祖母の味少し濃すぎた墓参

浜松東高校1年  
岡松 湖音

梅雨明けは顧問の叫び部活始まる

浜松東高校1年  
影山 海舟

胸高鳴る笛と太鼓と金木犀

天竜高校春野校舎3年  
河合 優希乃

本棚の懐かしき顔七五三

浜松東高校1年  
小松 諒亮

秋の空いつもと同じ仲間たち

浜松東高校1年  
小柳 幸穂

すいかわり赤いしづくがハジケとぶ

浜松東高校1年  
塩見 彩夕

鉛筆を削れるように終わる夏

加藤学園高校3年  
白須 叶恋

春の風僕らの夢を乗せて行く

浜松東高校2年  
杉浦 晴陽

良き風のありて良き椅子鯛雲

浜松市浜北区  
川島 多美子

母を看に帰るふる里稲の花

浜松市西区  
川瀬 慶子

手折りたき心何處かに花野道

浜松市東区  
河村 あさゑ

鏡餅校長室にどかとあり

東京都東久留米市  
小山 博子

月明に父の奏でる月の沙漠

神奈川県川崎市麻生区  
島岡 喜美子

少年の声の涼しき出世城

浜松市中区  
関野 由紀子

銀やんま空けつ放しの駐在所

長崎県長崎市  
西 史紀

植木屋と床屋が斬られ村芝居

東京都日野市  
日野 百草

父たちの車列の戻る大夕焼

茨城県稲敷郡  
宮崎 江海

産土の神の御手より春の蝶

浜松市東区  
宮澤 秀子

漁網干す鬼やんま飛ぶ高さまで

浜松市中区  
山田 泰久

田植時景色の色が変わる時

浜松東高校1年  
鈴木 渉眞

赤とんぼ明日をめぐけて飛んでいけ

浜松東高校1年  
鈴木 佑馬

途中駅止まれば肩へ夏日差

天竜高校2年  
鈴木 淳平

田圃道静かに燃ゆる彼岸花

浜松東高校1年  
千葉 伊織

並木道夜に歩いて風涼し

天竜高校春野校舎2年  
新出 創也

水色を涼しく思う季節かな

浜松東高校1年  
沼上 奈央

初声の雀の声に獅子頭

浜松東高校1年  
野末 実咲

木の実降る足下見ればすでになし

浜松東高校1年  
平野 悠翔

空中で男の戦夏祭り

浜松東高校1年  
船田 侑弥

たくさんの心機一転初明り

浜松東高校1年  
松本 哲平



金木犀(さんむくせい)

蘇る(よみがえる)

蝌蚪(かと)

新松子(しんちぢり)

籠枕(かごまくら)

獅子頭(ししがしら)

田圃道(たんぼみち)

漁網(ぎょうもう)

産土(うぶすな)

大夕焼(おおゆやけ)

何處か(どこか)

# 奨励賞

## 〈中学生の部〉

- 富士山をながめみかんの皮をむく  
与進中学校3年 赤澤 由夢
- 浜名湖の深い青色夏来る  
丸塚中学校3年 飯島 未琉
- 浜名湖にかかる虹見て傘とじる  
与進中学校3年 片岡 颯
- 夕日みてまだ夏らしき残ってる  
与進中学校2年 河合 圭聖
- 走り出す虹の真下に行きたくて  
丸塚中学校3年 河合 咲菜
- 稲のむこう一つのタワー町見渡す  
与進中学校2年 小池 可鈴
- 夏の山サルが電柱かけ登る  
丸塚中学校1年 佐藤 央
- くり採りにひいおばあちゃんに会いに行く  
天竜中学校2年 柴田 彩羽
- 夏の夕かべにボールをあてている  
中郡中学校1年 柴田 悠希

## 〈小学生の部〉

- 鮎上る天竜川を勇ましく  
和田小学校6年 伊藤 優斗
- 上向けばどんぐりの実が落ちてくる  
中ノ町小学校6年 伊藤 優月
- ピアノの音張り合うようにセミが鳴く  
蒲小学校6年 伊藤 琉希
- かも泳ぐラジオ体操そう行くあぜで  
北浜南小学校4年 井上 遥
- ばあちゃんがおしえてくれたお茶の花  
中郡小学校5年 井上 結菜
- かきごおりたべたらキンとほしがでる  
等井小学校1年 内村 監太
- 夏祭り金魚が我が家に仲間入り  
有玉小学校6年 大城 快維
- 親指がどじょうになるよ田植えかな  
豊西小学校5年 岡本 紗和
- 川に鯉田にはあめんぼ空に鳥  
中郡小学校5年 小栗 彩
- かえりみちかえるさわったぷにぷにだ  
豊西小学校1年 加藤 亜央衣

## 引退の体育館に新緑が

- あと数年年越しそばと猫と人  
丸塚中学校3年 芝谷 琉希
- 自転車をこいだ先には秋の空  
与進中学校2年 鈴木 まなこ
- 星月夜静かな木々に囲まれる  
与進中学校2年 松尾 亮太郎
- 汗流れ新人戦まであと三日  
与進中学校2年 山本 真衣
- 吹奏楽音を飛ばした夏休み  
丸塚中学校1年 吉田 めぐる

## あはははは夏の川からわらい声

- カブト虫いつもこの葉にかくれてる  
与進小学校6年 佐野 木菜実

## 祖母が抜く取っても取れぬ夏の草

- 水打でしあわせなじじ出て来たよ  
笠井小学校4年 永田 楓

## 田のかえる練習無しで声そろろう

- かき氷やがておおきくふじ山に  
大瀬小学校5年 中谷 純怜

## 鶯が音楽の地に音を運ぶ

- クラス替えそつと見守る蒲桜  
佐藤小学校6年 三浦 妃菜

## まっ青な空に広がる花吹雪

- 夏休み雲といっしょに行っちゃった  
和田 拓真

